

2019年11月16日(土) 15:00-17:00

参加：12名

司会・文責：堀越

1. 概要：

- ・初参加4名を含む総勢12名で、「なぜ魅力を感じるのか」という問いを掲げ、主に、魅力とはどういうことか、魅力を人が感じるメカニズムについて対話し、考えた。

2. 対話：

(0) 問いの提起

- ・進行役から、「魅力について、特になぜどう感じるのかを考えたい」と説明し、対話を始めた。

(1) 参加者が人に魅力を感じた事例(場面)：

- ・初めに、参加者から魅力について意識したり感じたりした経験を挙げてもらった：
 - a) 「自分が入れ込んでいる対象について、自分の言葉でしっかりと語れる人」には魅力を感じたことがある。
 - b) 「三国志」というゲームでは、登場する武将や英雄等のキャラクターに知力、武力等の能力を数値で設定できるようになっているが、その中に魅力という項目がある。魅力が数値で設定できるのかどうか。本人の努力で何とかなるものか、違うのか。分からなくなっている。
 - c) 人ではないが「ぬいぐるみの病院」というサービスがある。その事例の中で、「犬のぬいぐるみ」の目の位置が少しずれていたの、修理者がその目の位置を治したら、依頼人からは「これは私の依頼した犬ではない」とクレームを付けられたという。他者にとっては両目が揃っている方が良いと思うかもしれないが、その人にとってはそのずれがその犬の唯一無二の魅力であったということだと思う。そう考えると、魅力は受け取る側の主観に依存する割合が多いのではないか。

(2) 魅力とはどういうことか？～概念的な考察

- ・魅力とは、辞書によれば、「人の心を惹きつけて夢中にさせる力」とある。
- ・魅力とは「自分が持っていないが、それを欲しいと思っているもの」であり、それに魅力を感じる。→本当か。そのようなとき、自分は妬みを感じることもある。そうではないときもある。
- 確かに、恵まれた人には妬むことがある。→努力したら手に入るか、入らないかにもよるのではないか。
- ・魅力とは「惹きつける」ということであり、それは対象との「距離を縮める」ということではないか。
- ・魅力を感じたときにどうなるかを考えてみると、その対象に「心を支配されている」状態ではないか。
- ・「水をすごく飲みたい」ときに「水に魅力がある」と言うか。言わないのではないか。
- その土地の観光資源として魅力がある場合等には、「水に魅力がある」と言うと思う。

(3) 魅力とはどういうことか？～事例：石原さとみ・ヤクザの場合

- ・「自分が持っていないが、それを欲しいと思っているもの」という意見が出たが、本当か。私(男性)は石原さとみに対して魅力を感じるが、決して石原さとみのような女性になりたい、あの好奇心旺盛な性格になりたい、というように、彼女の持っている魅力を自分の物にしたいとは思っていない。
- 本当か。無意識かもしれないが、彼女の魅力を自分の物にしたいと欲しているのではないか。
- ・魅力とは、言い換えれば、好印象と同じだと思う。
- 「好印象」や「魅力的」と言うところまで客観的に聞こえるが、対して「好き」は主観的に聞こえる。
- ・ヤクザ映画に魅力を感じる。決してヤクザの世界に入りたいとか、彼らのような生き方を真似したいという訳ではないが、魅力を感じてしまう。対象に対して悪印象を持つのに、魅力を感じることもある。魅力と好印象は違うのではないか。
- 全体ではヤクザに悪印象かもしれないが、各要素で見ると、①禁止されている暴力を振るえることに解放感・カタルシスを抱いたり、②彼らの世界の規律性や忠心に好感を抱いたり、していないか。
- そもそも、「悪い魅力」はあるのだろうか。あくまでも上記の例のように、全体は悪印象だが、要素で見れば、良い魅力なのだろうか。

(4) 魅力を感じるメカニズム～対象の側にあるか、受け手側に生じるか、他の事象なのか？

- ・「好印象」というと、魅力という「人の心を惹きつけて夢中にさせる力」が対象の側にあるのではなく、受け手側が受動的に感じる要因が多いという解釈ができそうだが、そういう理解でいいか。
- 受け手の側による要因が大きいと思う。例えば、とても前向きな姿勢を持っている人に対して、自分が普通の状態であれば魅力を感じるのに対して、自分がとても弱っている場合であればそれを魅力とは感じないことがある。これは受け手による要因が強いということではないか。
- 自分の上司(女性)は、仕事で部下や同僚に対して文句を言いたいときでも、文句を一切言わない。それは自分にとっては魅力である。この魅力の場合は、その人が持っている性質であり、それを対象の側が有していると思う。
- ヤクザ映画の話の聴いて思ったが、「魅力」は「知らない相手だから気になる」と繋がっていないか。
- ・魅力が a) 「100%対象の側にある力」か、b) 「100%受け手側が主観で受け取る何か」かという二項対立から離れ、中間案として、c) 「受け手側が様々な形状の受容体を持っていて、特定の魅力の形状に反応する受容体を持っている人と持っていない人がいる」とは考えられないか。
- そう考えると、受容体には、意識できる受容体と無意識裡に感応する受容体があり、意識的・無意識的かはさておき、感応する受容体の数が増えると、その対象の人に魅力を感じることも考えられる。
- 北朝鮮の代表に我々日本人は魅力を感じないが、北朝鮮人民は感じているようなので、その受容体は、後天的に醸成されるものもあるはずである。後天的に醸成される要因が強いかもしれない。
- 無意識的な受容体があるので、その人の魅力を言語化して説明できないことがあると説明ができる。

3. まとめ

- ・魅力を感じる仕組みとして、特定の魅力に対応する受容体を持つか否かで感じるか否かが分かれ、無意識裡の感応があることでそれを言語化できない場合があるという考えが出された。だが、そもそもその特定の魅力の形状とは何か、その受容体とは何かを考えると途中で時間切れとなった。参加者や読者の黙考に委ねたい。

以上